

知見の囲炉裏端

日本と米国の違いを考える



技術経営士の会 海野 忍



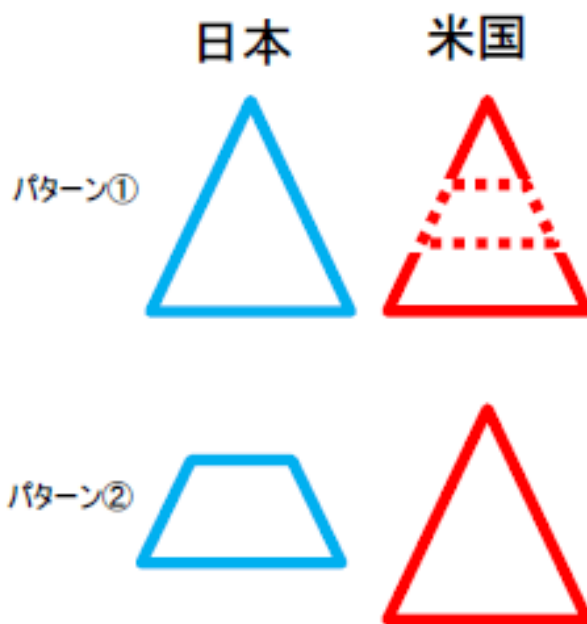
図：日米社会構造比較

30年くらい前の話であるが、留学していた米国のビジネススクールで米国人たちに議論をふっかけてみたことがある。そのときの私の言い分は、日本の社会は三角形だが、米国社会は三角形の真ん中が抜けた「中抜け三角」だよ、というものだった。（右図：パターン①）

当時から日本が一億総中流と呼ばれていたのに対し、米国はごく一部の資産家と、そうではない普通の人の2極化が進んでいるという認識だった。だからこそ、アメリカンドリームがあり、平民が一躍大金持ちになることがあり、拍手喝采を浴びていた。それに比べ日本は貧富の差こそあれ米国ほどの差がつくわけでもなく、だから皆似たような境遇にいるからのんびりと仲良く過ごしている、というイメージだった。

別に「中抜け三角」が悪いと思って言ったつもりはなく、むしろ、大きな夢が描ける素晴らしい社会という認識もあったので、単に社会構造を形にしただけのつもりで言ったのだが、これは思いもかけぬ大反発に会ってしまった。米国人曰く、イヤ、米国は上から下までスムーズな連続性のある綺麗な三角形なんだ、と主張してきたのだ。少々面食らった私は、あわてて言い直した。分かった、分かった、確かに米国は三角形だ。そして日本は台形なんだよ。（上図：パターン②）この意見には米国人も賛成してくれた。それなら日本の状態もよく分かる、と。

ここで学んだことは、何かを比喻を使って説明する場合、相手になるべく印象の良い例えを用いた方がいい、ということだ。あくまで比喻なのだから、問題の本質と何の関係も無いはずなのだが、それでも相手は、例えられたものの印象を気にする。「中抜け三角」は、彼らにとって好きではない言葉であり、形だったのだろう。



米国では、トランプ大統領を選出した大統領選が始まったところから、社会が大きく分断されたと言われている。選挙の投票率が高いことは、一般的には国民が政治に関心を持っているという良い証であろうが、ここまでギリギリの戦いになると、自分の側が勝ちたくて皆投票所に行ったわけだろうから、分断が明確になった証でもある。

一体、何が一番いいのかよく分からなくなってしまった。

共和党と民主党の戦いは政治政策の違いによる戦いではあろうが、実際には、裕福な層と貧困層の戦いの様相を呈している。この選挙を見て、昔「中抜け三角」を否定した米国人たちは何を思っているのだろうか。

日本の国力、あるいは産業の力として、平成は空白の30年と言われている。

この間、GNP、研究開発の力、イノベーションの国際競争力など、日本は米国にどんどん離され、中国に追い越され、世界で取り残されてきた。私も、これはなんとかせねばならない問題とは思っているが、こういった面で依然順風満帆に見えていた米国がこの分断騒ぎである。選挙前は、銃を求める米国人がかつてないほど多かったと聞く。

それに引き換え、日本はどうか。

NUMBEOという世界中の都市や国々の生活情報をデータベース化するサービスを提供している団体の発表によると、2023年では、日本は世界で13番目に住みやすい国だそうだ。この統計のトップには、オランダ、デンマーク、スイスといった欧州が並ぶが、ちなみに米国は17位としている。

<https://eta-cavisa.com/country-to-live-in/index.html>

また、Institute for Economics & Peaceという団体が発表している「世界平和度指数（Global Peace Index）」によると、これも2023年版で、日本は世界で9番目に安全な国、米国は163か国中なんと131位という低位に甘んじている。

[GPI-2023-Web.pdf \(economicsandpeace.org\)](https://www.economicsandpeace.org/gpi-2023-web.pdf)

世界レベルで客観的に見ると、日本は相当に安全な良い国である。

当然のことながら、空白30年について反省することは必須だろう。なんらかの方法で成長戦略を展開していく必要がある。しかし、こう見てくると、心配性で国力はイマイチだけど、実は幸せな国民、というイメージが現れてくる。

なんとダメな国に成り下がったものだろう、と嘆くか、これこそ真の幸せであると認識するかは、意見の分かれるところではないだろうか。

私は、一億総中流の方が国としての安定、しいては国民の幸福のためには好ましいように感じている。中抜け三角は、やはり危うく、怖い。何かと自国のやることを非難するのが好きな国民だが、日本の良さも再認識してみてもいいだろうか。